

製品名: CD284 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08325**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	95kDa

抗原情報

遺伝子名	TLR4
別名	TLR4; Toll-like receptor 4; hToll; CD antigen CD284
遺伝子 ID	7099.0
SwissProt ID	O00206
免疫原	抗血清はヒト CD284 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 392-441

背景

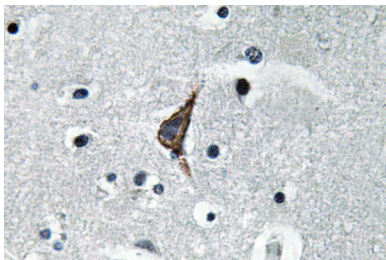
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、病原体認識と自然免疫の活性化に重要な役割を果たす Toll 様受容体 (TLR) ファミリーのメンバーです。TLR はショウジョウバエからヒトに至るまで高度に保存されており、構造のおよび機能的な類似性を共有して

います。TLRは感染性因子上に発現する病原体関連分子パターンを認識し、効果的な免疫の発達に必要なサイトカインの産生を媒介します。TLRはそれぞれ異なる発現パターンを示します。この受容体は、ほとんどのグラム陰性細菌に存在するリポ多糖（LPS）によって誘導されるシグナル伝達に関与していることが示唆されています。この遺伝子の変異は、LPSに対する応答性の違いと関連しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2012年1月]、疾患：TLR4の遺伝的変異は加齢黄斑変性10型（ARMD10）と関連している[MIM:611488]。ARMDは多因子性眼疾患であり、先進国における不可逆的な視力喪失の最も一般的な原因です。ほとんどの患者において、この疾患は、網膜色素上皮、ブルッフ膜と呼ばれるエラスチン含有構造内に、検眼鏡で確認できる黄色がかかったタンパク質と脂質の蓄積として現れます。、ドメイン：TIRドメインはNOX4との相互作用を媒介します。、機能：LY96およびCD14と連携して、細菌性リポ多糖（LPS）に対する自然免疫応答を媒介します。MYD88、TIRAP、およびTRAF6を介して作用し、NF-κBの活性化、サイトカイン分泌、および炎症反応を引き起こします。、多型：アレルTLR4*B（Gly-299、Ile-399）は、吸入LPSに対する反応鈍化と関連しています。、PTM：N-グリコシル化。Asn-526およびAsn-575のグリコシル化は、細胞表面におけるTLR4の発現およびLPS応答に必要であると考えられる。同様に、他のN型グリコシル化部位を2つ以上欠損した変異体は、LPSとの相互作用が欠損していた。、類似性：Toll様受容体ファミリーに属する。、類似性：1つのTIRドメインを含む。、類似性：21個のLRR（ロイシンリッチ）リピートを含む。、サブユニット：少なくともCD14、LY96、およびTLR4を含む多タンパク質複合体であるリポ多糖（LPS）受容体に属する。細胞外ドメインを介してLY96と相互作用する。それぞれのTIRドメインを介してMYD88およびTIRAPと相互作用する。NOX4と相互作用する。、組織特異性：胎盤、脾臓、末梢白血球で高発現する。単球、マクロファージ、樹状細胞、およびいくつかの種類のT細胞で検出されます。

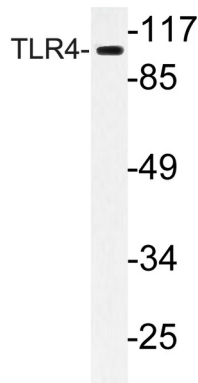
研究分野

Toll_Like;病原性大腸菌感染症;

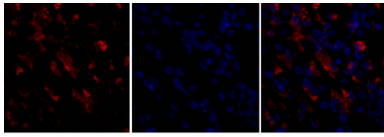
画像データ



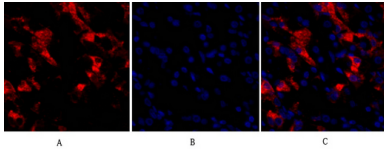
パラフィン包埋ヒト脳組織におけるTLR4抗体の免疫組織化学分析。



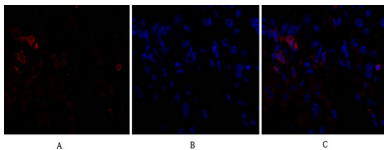
TLR4抗体を使用したHeLa細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。



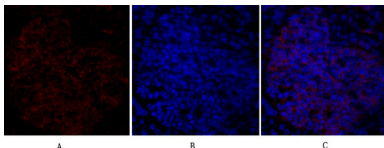
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, CD284 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



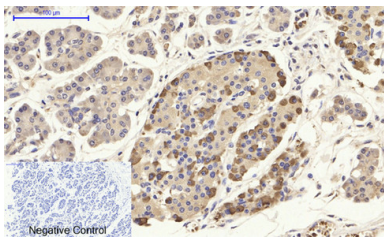
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, CD284 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



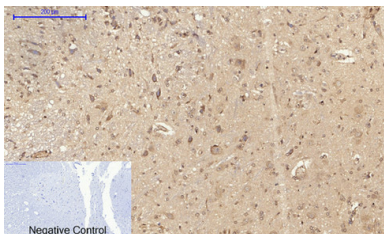
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, CD284 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



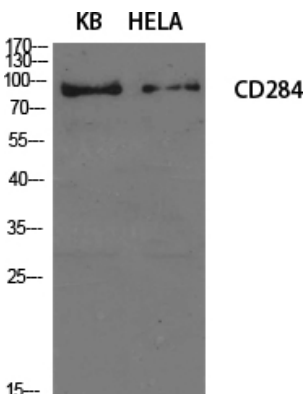
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, CD284 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学染色。1. CD284 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット脊髄組織の免疫組織化学染色。1. CD284 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



CD284 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。